

## 2012年度 第3回 鋼構造制振小委員会 議事録

- 1. 日時** 平成24年10月15日(金) 14時00分～17時30分
- 2. 場所** 建築会館
- 3. 出席者** 緑川光正、石井正人、笠井和彦、加村久哉、木村祥裕、田中清、玉井宏章、中込忠男、松岡祐一(敬称略)、宇佐美徹(記録)  
欠席:井上一朗、金子洋文、聲高裕治、引野剛、山下哲郎(敬称略)

### 4. 配付資料

- 03-01 2012年度 第2回 鋼構造制振小委員会 議事録(案)(宇佐美)
- 03-02 鋼構造制振設計指針に関するメモ(緑川主査)
- 03-03 構造関係規準・指針の将来検討 WG 報告書(緑川主査)
- 03-04 制振装置付長寿命建築物構造設計指針(笠井委員)
- 03-05 新構造システム建築物設計・施工指針(案)(笠井委員)
- 03-06 新構造システム建築物設計・施工指針(案) 4章 設計法(笠井委員)
- 03-07 鋼構造制振設計指針 目次(案)(笠井委員)
- 03-08 1章 総則(笠井委員)
- 03-09 建研、鉄連制振鋼構造指針に対するコメント(笠井委員)
- 03-10 5章 架構の設計(木村委員)
- 03-11 7章 簡易時刻歴応答解析モデル(石井委員)
- 03-12 5章 構造物の応答評価と限界状態(石井委員)

### 5. 議事内容

- (1) 資料 03-01 に基づき前回議事録の確認がなされた。
  - ・ 4.2.2 の修正は、金子委員と田中委員で実施する。(田中委員)
- (2) 資料 03-02 に基づき緑川主査より指針発刊までのスケジュールについて説明がなされ、資料 03-07 に基づき目次、各章の進捗状況の確認を行った。
  - ・ 出版は2014年4月に延長する。(緑川主査)
  - ・ 2章は完成しているので査読を開始すること。(緑川主査)
  - ・ 未完成箇所と執筆担当は以下。
    - 1、8、9章、4.1.2項、6.3節(笠井委員)、4.2.2項(田中委員)、5.1.3項(木村委員)、5.3.2項(吉敷委員)、7章(笠井委員、石井委員)
  - ・ 1.2.2項はダンパーによる制振効果の調整に変更。
  - ・ 1.2.3項は1.3節に変更し、1.4節を用語とする。
  - ・ 3.6節は接合部の設計例に変更。
  - ・ 3.4節、3.6節の進捗状況は玉井委員が確認のこと。(緑川主査)
  - ・ 5.2節のタイトルは見直す。(木村委員)
  - ・ 6.1節は基本事項とし、6.1.1項は適用に変更。

- ・ 7.1.1 項と 7.1.2 項は入れ替え。
- ・ 付録 6 として鋼材ダンパーの解析モデルの精度を追加した。(笠井委員)
- ・ 査読担当者は以下(敬称略)。

章	1	2	3	4	5、8	6	7	9	
付録		2、3	1	4、5		6	7		8
担当者	緑川	中込	玉井	笠井	聲高	宇佐美	山下	加村	松岡 木村 田中

- ・ 木村委員より修正した目次を各委員に送付のこと。(緑川主査)
  - ・ 用語については編集 WG で検討し、各章執筆責任者に連絡のこと。(緑川主査)
- (3) 資料 03-03 に基づき緑川主査より構造関係規準・指針の将来検討 WG 報告書について説明がなされた。
- (4) 資料 03-04~03-06、03-08 に基づき笠井委員より 1 章について説明がなされた。
- ・ 柱の塑性ヒンジの取り扱いについては、層の剛性低下の程度によるが、許容できる旨の記述とする。(笠井委員)
  - ・ 本指針の設計の考え方を図またはフローチャート等で分かりやすく表示すること。(緑川主査)
- (5) 資料 03-09 に基づき笠井委員より 9 章の概要について説明がなされた。
- ・ 建研、鉄連制振鋼構造指針に対するコメントは、設計の入口の手段としては有効である。(田中委員)
  - ・ 9 章は設計例ではなく、コメントに留める。(笠井委員)
  - ・ 加村委員と相談の上、早急に原稿を執筆する。(笠井委員)
- (6) 資料 03-10 に基づき木村委員より 5 章について説明がなされた。
- ・ 非制振構面の梁で塑性変形能力のない梁については、耐力を低減して設計する。(木村委員)
  - ・ 設計例はないのか(緑川主査)
  - ・ 完全合成梁は梁の軸力を考慮しなくて良いこととするが、不完全合成梁については WG で検討する。(木村委員)
- (7) 資料 03-11~03-12 に基づき石井委員より 7 章について説明がなされた。
- ・ 図 7.1.3 と図 7.2.1 はどの解析モデルを用いても良いのか。(緑川主査)  
良いと考えているが、問題点は記述する。(石井委員)  
7.2 節と 7.3 節はまとめて、モデル化の思想を枠内に記述してはどうか。(緑川主査)
  - ・ 付録 7 はテーマストラクチャーに限定しなくてもかまわない。

## **6 . 今後について**

- ・ 原稿はでき次第、玉井委員に送付のこと。
- ・ 次回は 2013 年 1 月 11 日(金)、14:00 より建築会館で実施。